



巻頭言

小児内科 教授 /

あべ よしふさ
阿部 祥英



江東豊洲病院こどもセンターのMission（社会における存在意義）は「小児医療の地域貢献」です。また、Vision（未来の理想像）には「幅広く診療できる小児科医“子どもの総合医”集団」を掲げ、診療能力の向上に努めています。

したがいまして、医師個人の専門性に固執せず、患儿一人一人を丁寧に診療することを日頃から心がけています。近隣のクリニックの先生方や医療機関からのご紹介によって、当センターにおける年間の入院患儿の数は増加傾向です。2023年に引き続き、2024年も開院以来の数を更新しました。当センターの一部を改築し、地域で望まれていた病児・病後児保育も2025年初めから開始しました。前述の診療姿勢を崩さないように留意しながら、地域の小児医療の受け皿としての役割を担いたいと考えております。

小児医療が担うべき分野は幅広く、臓器だけでなく、心に問題を抱える患儿にも対応できる総合力が我々小児科医には求められます。一般的な検査や治療はもちろんのこと、食物アレルギーの患儿にも適切に対応すべく、食物負荷試験も行っています。新生児および6歳未満の乳幼児の手術は年間200件を越え、5名の小児外科医の支援も充分です。不登校や虐待を未然に防ぐため、こどもを取り巻く環境にも目を向け、被虐待児に対しては児童相談所やその関連施設とも連携して対応しています。急性期病院の役割を停滞させないため、ソーシャルワーカーや退院調整看護師とも協力してNICU出身の重症児が円滑に在宅療養へ移行できるように支援する一方で、レスパイトにも対応しています。

大学病院は医療を提供するだけでなく、教育機関でもあります。冒頭で述べたMissionやVisionを実現するためには、若いうちから病院総合診療医（ホスピタリスト）を意識できる素養を身につけなくてはなりません。そのために若者の学術活動を促し、まだまだ小児科医の参加が少ない学会で、学生や臨床研修医による発表を奨励しています。9月末に姫路で開催された第31回日本病院総合診療医学会では、当科の医師の他、臨床工学士、若者の力も借りて10演題を提示しました。その結果、引率した医学生3名全員がトラベルアワードを受賞し、臨床研修医2名の演題が育成賞候補に選出されました。これからも成長の可能性を無限に秘めた若者の力を借り、臨床、教育、研究に邁進いたします。

地域の多くの方々からの求めに応じ、地域に育てられ、頼りにされる小児医療チームを目指しますので、引き続き、変わらぬご指導をお願いします。



第139号のトピックス

- ・巻頭言（小児内科）
- ・ハローキティがこどもセンターへ遊びに来ました
- ・当院中庭で昆虫探しを行いました
- ・第21回公開講座開催報告
- ・初年次体験実習の学生を受け入れました
- ・創立記念日休診のお知らせ
- ・ご意見・ご要望
- ・編集後記

ハローキティがこどもセンターへ遊びに来ました

10月2日（木）サンリオの人気キャラクター「ハローキティ」が当院の小児病棟を訪れ、入院中の子どもたちに笑顔と元気を届けてくれました。病棟にハローキティが登場すると、子どもたちの目は一気に輝き、あちらこちらから歓声が上がりました。

この訪問は、サンリオが取り組む社会貢献活動「Sanrio Nakayoku Project」の一環として実施されたものです。病気や治療のために長期間病院で過ごす子どもたちに、少しでも楽しい時間を過ごしてもらいたいという思いが込められています。

当日は、ハローキティが一人ひとりの病室を訪問し、ハグやハイタッチを交わしながら、記念撮影やプレゼントの贈呈を行いました。プレゼントには、ハローキティのぬいぐるみやオリジナルグッズが用意され、子どもたちは大喜びでした。緊張していた子がハローキティに手を振られて笑顔を見せる場面もあり、病棟全体が温かい雰囲気になりました。

保護者の方々からは「久しぶりに子どもの笑顔を見られてうれしい」、「治療でつらい日々の中、こうした時間は本当にありがたい」といった声が寄せられました。スタッフにとっても、子どもたちの笑顔は大きな励みとなりました。

当院では、今後も地域や企業と連携し、子どもたちとご家族に寄り添う取り組みを続けてまいります。



ハローキティと横山病院長（後列右から4番目）、阿部こどもセンター長（後列左から3番目）、当日の病棟スタッフ



ハローキティのデザイナー様より直筆色紙をいただきました

© 2025 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. GS660030

当院中庭で昆虫探しを行いました

9月17日（水）当院の中庭にて、江東区立豊洲西小学校の3年生の皆さんが昆虫探しを行いました。

子どもたちは草花の間を熱心に観察し、トンボやチョウなどを見つけては歓声を上げていました。

自然に触れる体験を通じて、子どもたちの好奇心や学びの心が育まれるひとときとなりました。

当院では地域の皆さまとの交流を大切にし、今後もこのような活動を支えてまいります。



当日の様子

第21回公開講座開催報告

10月13日（月・祝）、第21回公開講座を開催しました。「今日からできる！健康対策 ～寝たきりにならないための食事療法～」というテーマで、第1部では、「自宅でできる褥瘡治療 ～それは予防～」の演題で皮膚科・永田茂樹特任教授が褥瘡の定義から始まり、ケアの仕方や栄養状態の改善について講演しました。

第2部では、「食事で防ぐフレイル・サルコペニア ～健康寿命を延ばす栄養法～」の演題で栄養科・宮永直樹管理栄養士がフレイルの特徴や日々の食事での栄養摂取について、サルコペニアチェックの実演を交えながら講演しました。

受講された方からは、「大変ためになる講座でした。」、「症例をたくさん説明していただいて嬉しかった。」などといったお声をいただきました。一方で、今回は早い段階で申込数が定員に達したため、参加できなかった方も多くいらっしゃいました。

当日の講演内容は後日ホームページで公開する予定です。来場できなかった方はもちろん、すでに受講済みの方もぜひご覧ください。

次回開催は来年の春頃を予定していますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



（左から）皮膚科 永田特任教授、
大槻公開講座委員長、宮永管理栄養士



公開講座当日の様子

Pick up

初年次体験実習の学生を受け入れました



横山病院長による病院概要の説明（10月14日）

富士吉田キャンパスの本学医・歯・薬・保健医療学部の1年生が実習の一環として、当院を見学し、学びを深めました。

初年次体験実習は、早期に実際の医療現場を見学し、医療人となるための自覚を持つことを目的に、期間中に約100名の学生を受け入れています。

引き続き、診療・研究のみならず、医療人の育成に努めてまいります。



創立記念日休診のお知らせ

2025年11月15日（土）は、昭和医科大学創立記念日のため休診となります。あらかじめご了承ください。



ご意見・ご要望

感謝	回答
救急外来、脳神経外科・内科、検査室、6B病棟の皆様、大変お世話になりました。 約一週間の精査加療入院の中で、とくに接遇面が素晴らしく、心地よい入院生活を送ることができました。 看護師への教育の質の高さも感じられました。	この度は病棟職員に対してありがたいお言葉をいただき、まことにありがとうございます。 このようなあたたかいお言葉は職員の励みとなります。これからも、患者さんが心地よい入院生活を過ごせるよう、職員一同邁進してまいります。

編集後記

穏やかな小春日和が続く日々になりました。待ちにまった秋ですね。

先日、こどもセンターにはキャラクターの訪問がありました。性別や年齢関係なく、世界中から愛されている大人気者です。満面の笑顔で近寄り、声をかけるこどもたちの姿は可愛らしく、近くで見守っていた職員もニコニコな表情で、大変盛り上がりました。

さて、みなさんは幸せホルモンをご存じでしょうか？幸せホルモンはドーパミン・セロトニン・オキシトシンなどのホルモンのことです。嬉しい・楽しいなどの感情や達成感・満足感によって、脳内で多く分泌され、ストレスを和らげる効果があると言われています。この日のこどもたち・職員たちの脳内からは幸せホルモンがたくさん分泌されていたんだろうと思いました。

秋は、スポーツの秋・食欲の秋・行楽の秋などたくさんの表現がされています。自分の好きなことに取り組んだり、好きな食べ物を頂いたり、好きなものを見たりして、幸せを感じましょう。そして、幸せホルモンをたくさん分泌させ、心身の健康維持に努めましょう。

看護部 / おいぬま さとこ
笈沼 智子



昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
TEL03-6204-6000(代表)
発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ